

第24太陽周期はどうか 1. 観測速報

Solar Activities in the Current Solar Cycle (cycle 24)

石井 貴子 [1]; 磯部 洋明 [2]; 北井 礼三郎 [3]; 柴田 一成 [4]
Takako Ishii[1]; Hiroaki Isobe[2]; Reizaburo Kitai[3]; Kazunari Shibata[4]

[1] 京大・理・天文台; [2] 京大宇宙ユニット; [3] 京大・理・花山天文台; [4] 京大・理・天文台

[1] Kwasan and Hida Observatories, Kyoto-U.; [2] USSS; [3] Kwasan Obs., Kyoto Univ; [4] Kwasan Obs., Kyoto Univ.

<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/~ishii>

太陽の黒点の数は、約11年の周期(サイクル)で増減することが知られている。黒点周辺ではフレアやフィラメント噴出など宇宙天気に影響を及ぼす様々な活動現象が発生する。

1755年からの第1活動周期から数えて23回目の前回のサイクル(第23太陽活動周期)は、1996年から始まり、2001年ごろが黒点の数が最も多くなる極大期であり、その後、黒点の数は減少していき、極小期を迎えた。2008年1月4日、太陽の新しい活動サイクルの始まりを告げる黒点が現れた。京都大学大学院理学研究科附属天文台では、飛騨天文台の太陽磁場活動望遠鏡(SMART)で観測した1月5日の太陽画像を天文台ホームページで速報として紹介し、各新聞やYahoo ニューストピックスなどで取り上げられた。新聞・雑誌記者や一般の方のブログなどでは、地球温暖化と太陽活動の地球への影響の観点からの関心が高いようであった。こうして始まった新しいサイクルであるが、その後黒点がなかなか増えず、秋には、黒点がなかなか増えないことが、記事になった。

本講演では、今サイクルの太陽活動の状況について、これまでのサイクルの立ち上がり時期との比較も含めて、黒点数、フレアなど活動現象の統計データや飛騨天文台 SMART や各太陽観測衛星の画像を紹介する。